

体育館建設に伴う 今後の方向性について

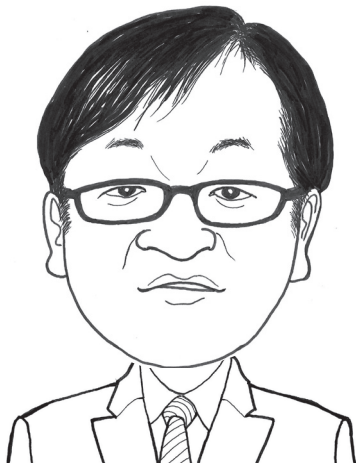
町長 町民説明会等、引き続き理解を得られるよう取り進める

問

清水町体育館は2024年の着工に向け、町民検討会議をはじめ様々な場面で議論がされていると思う。しかしながら経済状況も激変するなか建設費の高騰を含め、これまで各種団体の要望も現状においては妥協点が見出せず、平行線のまま多くの町民の納得が出来ない状況も予想できる。一度建設す

町長

新体育館の建設にあたっては様々な協議のもと、これまでの予定から1年繰り延べし、令和7



鈴木孝寿 議員



現在の体育館

年供用開始を目指している。本年7月6日の庁内検討会議において基本構想を決定し、その後町民検討会議で説明をし、現在意見をいただいているところである。

スケジューリングに厳しい状況もあるが、検討会議で進めながら、今後住民説明会やパブリックコメント等を行い、引き続き理解を得られるよう取り進める予定である。

わかりやすい政策の説明について

町長 町民参加の場などわかりやすい情報提供に努める

問

「ゼロカーボンとかち清水」、「清水町のSDGs」、「民泊推進」と様々な政策を打ち出しているが、具体的に何を目的としてどのように行うのか、そして町民は何をすべきなのか伝わっていない。町全体

町長

施策の推進においては町議会における議論や広報誌などあらゆる場を通して、町民の皆様にご理

解いただきご協力をいただくことは大切であると認識している。施策の中心は今後それぞれ充実させながら、町民の皆様へのわかりやすい情報提供と町民参加の場を設けるなどにより、今後明確に伝えられるよう努める。

コロナ対応における 福祉施設の支援について

町長 状況を踏まえながら適宜必要な対応を講じる

問

高齢者等の健康のため福祉施設の職員は一層の健康管理が要求されている。このことにより人的な負担が増大し、現状において施設の経営圧迫につながりかねない。これまで補

助・助成が行われてきたが、今後の対応について伺う。

町長

令和2・3年度に支援金の交付を行い、本年度においては感染防止対策

経費の増加を想定し、13事業者に対して支援金の交付を行った。今後については、感染症の状況を踏まえながら、適宜必要な対応を講じる。